

森曉紅 ぼりや 隨筆家、小説家。明治十五年十一月二十五日東京生れ、
昭和十七年四月九日没（八八二―九四二）。本名汪助。筆名曉紅生。大正
五年博文館に入り、雑誌「文藝俱樂部」編輯主幹。のち岡鬼太郎と落
語研究会を興した。

著書「七夕竹」（曉紅名、秋湖合著、明治四十年七月七日梅畦庵）、

「豆會徳」（曉紅生名、明治四十二年十一月七日青海堂ニ芸屋書
店）、マホノボ「二度笠道中あとの紐」（大正八年二月二十四日富田文陽堂）、

「白歸り」と酒落の草鞋」（大正九年五月十日富田文陽堂）、マ一才し
「夜泊り」と酒落の草鞋」（大正九年五月十日富田文陽堂）、マ一才し
「旅」（大正十年八月十五日博文館）、マ鳥渡白歸り「泊り」のんき（旅）（大

正十年七月五日文陽堂書店）、マお誂しなぐ「お誂しなぐ」（大正十一年七月五
日ライオン社）、マ赤穂「赤穂四十七士の物語」（曉紅生名、編、大正十二年

十一月五日大阪・岡本講業館）、マ假名文字櫻「假名文字櫻」（大正十五年五月五
日）「松堂書店」「大衆文藝叢書」、マ珍談可談集「珍談可談集」（合著、昭和八年

十一月十六日大日本雄辯會講談社「キング文庫」）等。